

手帳の種類	性別	年齢	自由意見
身体	男性	70歳以上	自分もだが最近難聴の人が多くなった様な気がする。人の話を聴くのが好きなのに余り良く聞き取れずに、人の話す事が同時に写し出す(文字が)事は無理かなー。補聴器をするよりないのかね。
精神	男性	50～59歳	デジタル化に、すべてのサービス、お知らせ等のサービスが、なるのが怖い。もう難しい年齢なので、デジタル化が、チンプンカンプンになり、一人、取り残されたような心境になります。デジタル化が苦手というか、分かりづらい。怖い。
知的	男性	6～11歳	障がいの子が生まれても地域で十分な公的サービスがあると安心して暮らせるようになるとありがたいです。支援学校へ通うため現在父(清里)、母子(北見)で生活していますが、経済的な支援もあるとありがたいと思っています。
精神	男性	40～49歳	公共交通機関も福祉サービスの一部であるとの意識を持って欲しい。Webによる、2～3か月前からの幅広い広報が欲しい。広報きよさとは遅い。
-	回答しない	-	配食サービスを利用したいが、申し込みの電話をしたら「どれくらい食事に困っているか？」と聞かれ、根ほり葉ほりインタビューされたので、面倒になって利用を断念しています。「配食サービスを受けられる基準を教えてください」と言っても、曖昧な返事しかありませんでした(当方、障害者手帳所持者です)。障害者手帳を持っていたら、一律でサービスが受けられるようにするべきだと思います。そうでないのならば、サービスを受けられる基準を明確にして公表すべきです。また、配食サービスで配食する人は(労働者)守秘義務を守れる人材を採用していますか？小さな町で、「あの家には障害者がいて配食サービスを利用している」という情報が漏れるのは、配食担当の人からです。教育と守秘義務の徹底が必要です。
身体	女性	70歳以上	どんな制度が町にあるかわかりやすくしてほしい。